

教育目標：よく考え 進んで学ぶ子 自分も友だちも大切にする子
正しく判断し 行動できる子 体を鍛え 最後までやりぬく子



学校だより

高松

令和7年2月3日 発行

立川市立第五小学校

校長 関口 保司

〒190-0011

立川市高松町1丁目12番25号

TEL 042-523-5238~9

042-523-5230 (こだま学級)

FAX 042-529-0854

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es05/>

あこがれが力に

～本日の朝会講話から～

副校長 上野 徹

最初に、本日2月3日の全校朝会で時間をいただき、私が全校児童に向けて伝えた話を紹介します。

私は小学生の時に大好きな野球選手がいました。もう40年近く前になりますが、大切な場面でホームランを打つとバク宙をしながらホームインした西武ライオンズのスーパースター「秋山 幸二」選手です。立川市の小学生だった私は、秋山選手を見るために埼玉県にあるスタジアムまで友達と自転車でいったこともありました。

私にとってまさに「あこがれ」。秋山選手に少しでも近づくために、小学生の頃から高校、大学まで、重たいバットを振ったり、走り方を真似しながらランニングを続けたりして、「3番・センター」の座をつかもうとこつこつ練習を続けていました。

ここでクイズです。私は、秋山選手のように130m以上先にボールを飛ばし、バク転ができるような野球選手になれたでしょうか？答えは「ノー」です。でも、あこがれに近づくために努力を続けてきたおかげで、いいことがたくさんありました。例えば、今でも体力には自信があったり、目標達成をあきらめない気持ちをもっていたり、たくさんある苦手なことも意外と頑張れたり、などなど。

今日、みなさんに一番伝えたいのは、あこがれや目標をもちチャレンジや努力を続けると、必ず、自分の力になるということです。みなさんの中には、好きな選手やアーティスト、やりたい職業などが決まっている人がいるかもしれませんが、そういう人は、ぜひ、チャレンジや努力を続けてほしいです。夢について友達や家族と語り合うのもいいと思います。逆に、「将来の夢や職業と言われても…」という人もたくさんいるでしょう。でも、全く心配はいりません。今、自分が好きなことや楽しい時間を思い浮かべてみてください。その中に、これから続けていくべきことのヒントがあるかもしれません。お正月に決めた新年の抱負や3学期のめあてに向かって、できることを積み重ねることも素晴らしいことです。

最後に、各教室で目の前にいる先生たちは、小学生の時にどんな夢をもっていたのでしょうか？

気になる人は、ぜひ、聞いてみてください。

今は、ひと昔前のように「言われたことさえきちんとできれば」という時代ではありません。「正解がない時代」とも言われます。この先、ますますその傾向は強まるでしょう。そのような世の中へこれから漕ぎ出す子どもたちに必要なのは、自ら考え、学び、実践する原動力やきっかけです。

学校では、子どもの能動的な姿を捉えて励ますだけでなく、様々な分野につながる種まきを授業内外で行っていきます。もしも、お子さんが自分から情報を得ようとしたり、何かを身に付けようとしたり、地道な努力を始めたりする姿を目にしたら、ぜひ、家庭・地域でしっかりと目と耳を傾けていただければと思います。

今号の裏面には、昨年の11月下旬から12月中旬にかけて行った全児童と保護者対象の「学校評価アンケート」の結果を掲載してあります。多くの皆様から回答いただき、また、各段階による評価のみならず文章によるご意見やご感想も多数いただきました。これらを参考に、学校経営に取り組んでまいります。改めて、深く感謝申し上げます。